

令和2年度 神戸市立図書館 事業評価

令和3年8月
神戸市立図書館協議会

令和2年度神戸市立図書館事業評価

神戸市立図書館協議会は、事務局から提出された令和2年度の図書館サービスの自己評価について協議を行い、「令和2年度 神戸市立図書館事業評価」として公表する。

評価の基準

- A：計画どおり実施し、一定の成果があった
- B：概ね計画どおりだが、不十分な点や課題が残った
- C：不十分な点や課題が多く、計画どおりにいかなかった

令和2年度の取組項目と具体的取組及び評価項目

※「印」印＝「コロナ時代に開催するための工夫」

図書館事業評価一覧	
令和2年度の目標と行動計画	
1 資料の充実	
評価のポイントと取組事例	<p>(1) 学習拠点としての資料の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学び直しに役立つ基本的な資料の買直し（分野ごと） <ul style="list-style-type: none"> 今年度も、引き続き学びに役立つ基本的な資料の購入を行っている 『百人一首を読み直す2』（兵庫図書館） 『一度読んだら絶対に忘れない世界史の教科書 経済編』（西図書館） 『知識ゼロからの短歌入門』（垂水図書館）等 特に、それぞれの館の特色や行事（イベント）等と連携した資料の購入等を行った 『英会話 1000 本ノック ビジネス編』『一億人の英会話：話すため』（三宮図書館） 『色彩心理図鑑』『色のたのしみ』等（北神図書館） 『60 歳からはじめられるゆっくりていねい旅行英会話』等（須磨図書館） ・ 電子書籍（資格問題集等）の充実 <ul style="list-style-type: none"> 令和3年1月5日から電子図書館の運用を開始した。サービス開始ということもあり、様々な分野の資料が揃うようコンテンツ購入を行った。また、図書館独自のコンテンツも配信した。資格問題集等については、これから拡充していく予定である。 『日本の都市景観 100 選』『できるキッズ子どもと学ぶ JavaScript プログラミング入門』 『サピエンス全史』『あ・うん』『それゆけ、ジーヴス』 『ルドルフとイッパイアッテナ』『タンタンタンゴはパパふたり』等 図書館独自コンテンツ『KOBE の本棚 神戸ふるさと文庫だより』『としょびか』 ・ オンラインデータベースの追加（名谷） <ul style="list-style-type: none"> 4月より「日経テレコン21」を提供開始。 <p>(2) 地域資料の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域図書館の貸出用資料充実 <ul style="list-style-type: none"> 『六甲山の地理』『神戸・六甲山のチョウと食草ハンドブック』（灘図書館） 『丹生山田ガイドマップ（第2版）』（中・北・北神・新長田図書館） 『東本：新長田東エリアの物語』（新長田図書館） その他、新長田図書館ではアジア系の住民の方に合わせて、韓国文学（日本語表記あり）やアジア図書（今年度は韓国語資料（小説やガイドブック）を30冊）を購入した。 <p>(3) ユニバーサルデザインに配慮した資料収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症関連資料の充実 <ul style="list-style-type: none"> 認知症の関連資料は多数出版されており、各館では様々なテーマを考え、資料を購入

	<p>『ボクはやっと認知症のことがわかった』（北神図書館）等、認知症の理解を深める資料や、『今日のわたしは、だれ？』『夢に住む人』（いずれも東灘図書館）等、認知症の闘病記、更には、認知症の理解について幅広い世代に伝えるために『一本の線をひくと』『おじいちゃんの手帳』『赤ちゃんキューちゃん』（「絵本こどもに伝える認知症シリーズ」1～3）（いずれも新長田図書館）等、児童書の購入も行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きな活字の資料の収集継続 「宮沢賢治大活字本シリーズ」等、継続購入中である。令和2年度に購入した大活字本は全館合わせて約110タイトル 約430冊。 電子書籍（多言語・読み上げ機能）の提供 ☞令和3年1月5日より電子図書館の運用を開始した。読み上げに適した電子書籍を中心にコンテンツの拡充を行った。 多言語の資料についてはこれから拡充をすすめる。
評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学び直しに役立つ基本的な資料は、昨年に引き続き各館で購入を行った。ユニバーサルデザインに配慮した資料についても、認知症関連資料の充実に加え、大活字本の収集を全館で進めることができた。 電子書籍については、サービス開始に合わせて幅広い分野のコンテンツを収集、提供することができた。バリアフリー対応のため、読み上げに適したコンテンツを積極的に収集した。 電子書籍の資格問題集の収集、多言語対応については、次年度以降の課題として残った。 <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <p>(1) 学習拠点としての資料の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 学び直しの機会を求める人は今後増えていくと予想される。こういった願いを支えるためにもニーズを予想して資料の充実を図ってほしい。 電子書籍の充実は急いでほしい。「学び直し」に役立つ資料については、希望する人は多いと思われるので、引き続き力を入れてもらいたい。 資格取得用の資料は「かんぼう」で扱っているものも積極的に取り入れてくださるとありがたい。 仕事の調べものなどで図書館（大阪市など）を利用している。神戸市の市立図書館で、ビジネス関連の資料やデータベースを利用できればありがたい。資格問題集と合わせ、より一層の充実を望む。 電子書籍の充実に関しては、図書館独自のコンテンツとしていわゆる「図書館が自前で提供し得るコンテンツ」だけでなく、神戸市の総合計画を推進するための各部局が公表している広報物、報告書、記録などさまざまな情報資源のデジタル化を積極的に推進し、本文検索可能かつ音声読み上げ可能にすることこそ、従来の図書や雑誌を中心とした閲覧と貸出業務中心とする図書館の機能と役割をDX（デジタルトランスフォーメーション）化することになると考えられる。 学び直しについて、分野毎とありながら、どのような分野かが不明。 電子書籍の導入は良い評価を加えたい。ただ、そのコンテンツ選択の基準を設定して欲しい。 オンラインデータベースについて、全館におけるこれまでのDB導入状況が不明。そのため、判断できない。 「学びなおし」のための資料の充実については、新しいものが出版されたら、古いものと入れ替えたり、新しい視点で書かれたものが増えていくのが望ましい。新しい書籍を見つけることによって、取り組みきっかけにもなるので、継続的に入れ替えてほしい。 <p>(2) 地域資料の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> オンラインデータベースに関して、4月より「日経テレコン21」を名谷図書館において提供したことは高く評価することができる。すべての図書館で提供するオンラインデータベースの拡充と同時アクセス数の増加がなされることが望ましい。 <p>(3) ユニバーサルデザインに配慮した資料収集</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子書籍の多言語対応についても、2021年度は積極的に取り組み、国際都市「神戸」にふさわしい電子図書館サービスを国内で率先して展開すべきであると考えます。 ユニバーサルデザインに配慮した資料収集も、認知症や大きな活字資料が中心となっているが、DAISY

等の視聴覚障害関係の導入状況報告もお願いしたい。

- ・「大活字」、特に「読み上げ機能」に関しての充実は素晴らしい取り組みだと思う。このようなことを広めるために、広報紙などの字の媒体で告知するより、ラジオなどで宣伝してみるのはいかがでしょうか。本をあきらめてラジオを聞いている人の活用につながるのではないかと。

(その他全般)

- ・様々な観点から広く資料の収集が行われており、良いと思う。課題としてあげられているが、電子書籍などの今後の充実を期待する。
- ・今後は、SDGs 関連の資料の充実を期待する。

評 価

B

2 学習機会の提供（児童向けは、6 子供サービスの項へ）

評価の
ポイント
と取組
事例

☞利用者参加のイベントについては、新型コロナウイルス感染症対策として、定員の削減や会場の変更、実施時間の短縮、実施者・参加者双方マスク着用等、感染症対策をそれぞれに行った上での実施となった。（他の項目も同様）

(1) 仕事や地域活動に役立つ情報・機会の提供

イベント開催数 7回・参加人数 175人 展示の回数 41回

・講座、講演会、展示、その他イベントの実施

「教科書展示会」（中央・東灘・灘・兵庫・北神・新長田）6/23～7/8

「土砂災害防止パネル展」（東灘）6/27～7/3

「自殺予防週間関連展示」（全館（名谷除く））9月

「自殺対策強化月間展示」（全館（名谷除く））3月

「認知症関連展示」（中央・東灘・北神・新長田・須磨・垂水・西）9月

「古文書をよむ『神戸村文書』から見える人々のくらし展」（中央）11/13～12/16

『輝け★須磨オヤジ塾』第1回「第一歩を踏み出す」（須磨）10/15 20人

第7回「図書館の使い方」（須磨）12/10 17人

「就活セミナー『自分らしさの伝え方』（北神）11/3 6人 講師：パソコンスクールあすか

「ビジネス支援講演会『起業（ゆめ）を形に2021』」2/26 22人

「ビジネス支援展示『創業する前に知っておきたいこと』」1/30～2/28

(2) 生活の質を高める情報・機会の提供

イベント開催数 132回・参加人数 2,101人 展示の回数 433回

・講座、講演会、展示、その他イベント等の実施

「大人の朗読」（灘）9/26 15人・11/28 15人・3/27 12人

「大人のためのおはなし会」（北）11/5 32人 於：すずらんホール1階 多目的ホール

「大人のためのストーリーテリング」11/4 20人（北神） 於：北神区文化センター

「大人の楽しい朗読」（新長田）10/24 5人

「本の案内しよ～出張図書案内」

（北）9/27 6人・2/28 5人・3/21 5人 於：鈴蘭台街の小さな図書室

（北）3/21 15人 於：神鉄鈴蘭台駅ベルスト鈴蘭台3階広場

「時代小説総選挙 2020@図書館」（兵庫）9/1～9/30 37人

好きな時代小説、作家、作品、ならびに推薦理由を自由記入欄にて回答できるアンケートを館内で配布集計し、後日館内で発表（9/24～10/11 関連図書と共に展示）

「雑誌リサイクルフェア」（中央・東灘・北・新長田）10月～11月

☞整理券配布・入場制限・会場の変更・密集を避けるように雑誌を配置

「図書館クイズ」（中央）10/16～11/15 21人

「工作教室『豆本をつくろう』（垂水）10/25 6人 於：垂水区文化センター木工芸室

「みんなでつくろう！西図書館カルタ」（西）10/27～11/23 回収数：読み札77枚 絵札50枚

「西区」「図書館」「本」にまつわる読み札と取り札を募集し、西図書館カルタを作成。

「大人の工作教室『ハレの日を飾る水引』（東灘）11/1 8人

水引細工の入門編で、あわじ結びととし袋の飾りを作成。

「世界を書くための装置 ノンフィクションの文体について」（新長田）12/5 16人

於：細田地域福祉センター（新長田図書館1階）

『日向坂46ストーリー』の著者である西中賢治氏によるノンフィクションの文体とその書き方についての講演会。

「本の修理教室」（灘）12/20 3人

「100文字小説マイクロノベルを書いてみよう」（新長田）2/20 19人

『100文字SF』の著者である北野勇作氏を招いて、ほぼ100文字でつづる「マイクロノベル」のレクチャーを受け、参加者も「マイクロノベル」を書いてみるワークショップ

「展示『Re:デザイン』（新長田）10/27～11/8

「展示『作ろう学ぼうおうち時間』（垂水）10/20～11/8

「展示『おうち時間～人間は考える葦である～』（西）10/27～11/8

	<p>☞「自宅でも工夫次第で楽しく過ごせる」をテーマに、一般書・児童書を展示 「ドキドキ☆秋の福袋」(須磨) 11/1～11/12 福袋と称して、図書館で選書した本を袋詰めにし、袋毎に貸出する。灘、三宮、北、北神、垂水でも同様の福袋を実施。</p> <p>【大人の福袋は半年ぶり、袋を出すたびにすぐに貸出となった。】</p> <p>「田岡さんと大きな『山 ZINE(人)』をつくらう♪」(兵庫) 10/26～2/28 利用者に、大きな一枚の紙に描かれた架空の山に付箋で山での体験や山に関する思い、情報を貼り付けてもらい、一枚の大きなリトルプレス(ZINE)を完成させる。兵庫区在住の美術家・田岡和也氏のリトルプレス(ZINE)の展示と図書館所蔵の山をテーマとした展示と共に開催。</p> <p>☞コロナ禍の社会状況であっても、自然(山)とまちが隣り合う神戸のまちに生きる市民に、屋外であっても自然を感じさせるアート作品や本を介して、いわゆる卓上(机上)旅行気分を味わってもらう。</p> <p>「おはなしまスク」(北神) 4/19～印刷して切り取り、布マスクのひもに通すもの ☞緊急事態宣言を受けて自宅待機する父親が子供に絵本の読み聞かせをしたくなるような「おはなしまスク」を企画し、図書館ホームページとFacebook、エコール・リラのLINEに掲載。</p> <p>「アーティスト支援『謎劇』への協力」(兵庫) 5/23 会場使用と絵本の選定 ☞新型コロナウイルス感染症の影響により活動場所を失ったアーティストに図書館内で「場」を提供した。(主催者より、絵本の朗読と音楽演奏、歌唱、作品解説を合わせたオンライン朗読劇ライブが配信された。)</p> <p>「おうちで楽しむビブリアキッチンクイズラリー～ホームページを回って、クイズを解こう!～」(兵庫・北・北神合同) 12/1～12/13 ☞自宅のできるクイズラリーをホームページ上で開催した。</p>
評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言等への対応のため、中止せざるを得ない行事も多かったが、昨年度から試行錯誤してきた感染症対策のノウハウにより、それぞれ工夫しながら行事を開催した。 ・本を選ぶ時間を短縮すると同時に思わぬ本との出会いを得られる「本の福袋」は感染症対策下では効果的で、利用者にも好評であった。 ・“おうち時間”を考えるための本の紹介展示、アンケート形式による参加型展示を行うなど、生活や図書館利用の制約の中で、少しでも楽しみを提供できるよう各館努めた。 ・ホームページでのクイズラリーの開催や「おはなしまスク」の発信など、感染症対策によりICTを活用した新たな取り組みを行うことができた。 <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <p>(1) 仕事や地域活動に役立つ情報・機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事や地域の役立つ情報・機会の提供に関して、「自殺予防対策」「認知症関連展示」についてはきわめて重要な取り組みであり、高く評価することができる。図書館の役割として、地域住民が生きていくためのさまざまな障壁を、福祉行政とは異なる立場から取り除くことが求められており、力を注ぎたい領域であると感じる。 <p>(2) 生活の質を高める情報・機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症感染予防対策もあって考えられた「本の福袋」はとても素晴らしいアイデアだと感じた。 ・コロナ禍でのイベント開催にはいろいろな困難があったことと思われる。「おうち時間」を考えるための紹介展示など、図書館らしい工夫を試みたことは評価できるだろう。 ・コロナ禍でもあり、参加人数が限られている企画もある。対面での参加以外に、同時にWeb視聴(Zoomなど)ができないか。(工作やお話会であれば、Zoomで受講したことがある。)夏休みや長期休暇などに、親子でWebで参加できる企画があると嬉しい。

- ・「本の福袋」がとても良い企画だと思うので、各館や様々なテーマで展開してほしい。
- ・「大人の福袋」の盛況ぶりは、図書館の新たな選書基準を鍛えるものとして評価できる。あえてタイトルや著者名を示さない偶然の中で、図書館利用者が新しい図書、新しい自己との出会いがありうるわけで、このようなスリリングな体験を大人に提供できる図書館の切り口は素晴らしい。
- ・コロナ禍の中でのイベント実施は、困難であったにも関わらず、非常に活発に行われている。特に「おうち時間」の充実を図るなど生活の質を高める情報・機会の提供は、独創的で創造的なものが多く、また各年代にわたる内容となっており、優れている。
- ・コロナ禍での制約があっても、その時の状況に合わせて開催されていたことは大変評価できるし、「本の福袋」のような企画はとても面白いと思う。今後も家で過ごす時間が増えることが予想されるので、ICTを活用したさらなる企画に期待する。

(その他全般)

- ・コロナ禍で制限される中、工夫して多様な行事、イベントを実施されていると思う。
- ・コロナ禍に対して工夫して取り組んでおられる様子がわかった。
- ・面白そうな企画をされているので、LINEなどでイベントや講座の案内をして、より多くの人に周知してほしい。(できれば、LINEで申し込みができたり、申込へのリンクを貼るなどできないか。)

評 価

A

3 関係機関との協働 (2からの抜き出し)

評価の ポイント と取組 事例	<p>(1) 行政機関との連携</p> <p>イベント開催数 7回・参加人数 145人 展示の回数 85回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉局、健康局 <ul style="list-style-type: none"> 「ウォーターサーバー設置」(全館)7月～9月(健康局) 「自殺予防週間関連展示」(全館(名谷除く))9月(再掲) 「自殺対策強化月間展示」(全館(名谷除く))3月(再掲) 「ひとやすみ」「リラックス」など各館毎の切り口で関連図書を展示。 ☞「ステイホームでも、移りゆく季節を感じたい！」など、在宅を意識したテーマを取り入れた。 「認知症関連展示」(中央・東灘・北神・新長田・須磨・垂水・西)9月(再掲) 認知症「神戸モデル」のポスターや『広報紙 KOBE 9月号』の認知症特集ページを掲示。 関連チラシを配布、関連図書の展示・貸出。 ・各区まちづくり課 <ul style="list-style-type: none"> 「『シタマチコウベ』×ジュンク堂 コラボ企画」6/26 「下町選書」おすすめ本の選定(3冊) 兵庫区役所 ※シタマチコウベ＝地下鉄海岸線沿線・市街地西部地域のプロモーションサイト 「『輝け★須磨オヤジ塾』第1回「第一歩を踏み出す」(須磨)10/15 20人(再掲) 第7回「図書館の使い方」(須磨)12/10 17人(再掲) 概ね60歳以上の男性の地域活動を推進する講座 須磨区役所・須磨区社会福祉協議会等 ・文化財課、埋蔵文化財センター <ul style="list-style-type: none"> 「古文書をよむ-『神戸村文書』から見える人々のくらし展」(中央)11/13～12/16(再掲) <li style="text-align: right;">文化財課 企画展「神戸・うつりかわる町とくらし～昭和ノスタルジー」への資料協力(中央)12～3月 上記企画展にあわせた資料展示、チラシとポスターによるPR協力(西)12～3月 <li style="text-align: right;">埋蔵文化財センター イベント「ねえ、知ってる？神戸にも戦争があったんだよ」への関連資料展示、ブックリスト作成による協力(西)1/31 埋蔵文化財センター ・企画調整局未来都市政策課 ほか <ul style="list-style-type: none"> 「リノベーション・神戸(第2弾)」事業のひとつとしてオープンした名谷図書館について、プレオープンイベントを開催 「イスづくりワークショップ」(名谷)3/14 48人 名谷図書館で使用する椅子を作成するイベントを施工会社等の協力のもと開催。名谷を含む神戸市のリノベーション計画の広報パネルも展示。 「INAC神戸選手によるビデオメッセージ」(名谷)3/14 名谷図書館の開館にあたり INAC神戸レオネッサの選手から寄せられた開館お祝いのビデオメッセージをプレイベント会場にて放映。名谷図書館のWebページでも公開。 ・その他 <ul style="list-style-type: none"> 「こうべ医療者応援ファンドポスター掲示」(三宮)6/9～6/30 於：勤労会館1階ギャラリー <li style="text-align: right;">公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 『花森安治 暮しの手帖の絵と神戸』展への資料協力10/22～3/26 神戸ゆかりの美術館 ほか、神戸海洋博物館、神戸市立博物館、香川県立ミュージアムの各企画展に資料提供(中央) 「KOBE ミュージックポート～秋の音楽祭」のPRトイレットペーパー、音楽イベント専用のチラシラックを期間限定で設置(中央)10月 神戸市民文化振興財団 <p>(2) 学校園との連携 →6 子供サービスの項へ</p> <p>(3) 大学との連携</p>
--------------------------	--

イベント開催数 1回・参加人数 13人 展示の回数 4回

- ・神戸女子大学等、地元大学との連携イベントの開催
「インターン生のおすすめ本POP紹介」(須磨) 9/15～11/8
インターンシップ生6名によるPOPと関連本を展示 神戸女子大学
「連携展示」(中央) 10/1～10/31 神戸市外国語大学
『神戸外大教師が新入生にすすめる本』(神戸市外国語大学編)をもとに紹介本を展示
- ・大学が実施する地域貢献事業への支援
「多文化こどもカフェ」(新長田) 10/17 13人 於:カフェナドゥリ
多文化交流を目的とし、ホットック作り・世界の遊び・読み聞かせを実施。図書館は読み聞かせとブックリスト配布で参加。 神戸常盤大学・神戸コリア教育文化センター主催
- ・実習やインターンシップの受け入れ
「実習」 (中央) 神戸松蔭女子大学 9/29～10/3 2人
(中央) 同志社大学 10/6～10/10 3人
「インターンシップ」(須磨) 神戸女子大学 8月 計4回(各5日間) 6人
(垂水) 県下の大学(垂水区役所経由) 8/20 5人
☞実習生にも、マスクや手洗い等、感染症対策を徹底させた。

(4) 企業との連携

イベント開催数 11回・参加人数 113人 展示の回数 4回

- ・ビジネス支援講演会、展示の実施
ビジネス支援講演会「起業(ゆめ)を形に2021」(中央) 2/26 22人(再掲)
ビジネス支援展示「創業する前に知っておきたいこと」1/30～2/28 38冊、パンフレット等の配布(再掲) 日本公庫神戸創業支援センター
- ・その他
「つなぐ“マスク”プロジェクト」(全館) 6/26～7/31
マスクの回収箱「マスクポスト」の設置(神戸市と日本郵便の連携事業)
「湊山 OPEN SCHOOL 出張図書館『湊山思い出らいぶらり～@兵庫図書館』」(兵庫) 10/31
旧湊山小学校の校舎一部解体前の最後の学校開放イベント「湊山 OPEN SCHOOL」にて、出張図書館を実施 「湊山 OPEN SCHOOL」事務局、(株)村上工務店主催
「親子で楽しむプログラミング教室」(新長田) 9/6 4回・計23人(再掲)
タブレットプログラミング体験会、スクラッチプログラミング体験会を、株式会社 mama square(講師派遣・機材準備)と共同開催。

(5) 地域団体・NPOとの連携

イベント開催数 17回・参加人数 217人 展示の回数 42回

- ・既存の関係団体との連携継続(KFC、神戸アーカイブ写真館等)
「夏休み読書の会～ミンガラーバー ミャンマー～」(新長田) 7/31 8人・8/7 8人
NPO 法人神戸定住外国人支援センター(KFC)
ミャンマー出身の子供達に対して、読み聞かせとクイズラリー、館内見学を実施
「パネル展示 神戸の神社を訪ねて」7/14～10/11(東灘・灘・三宮・新長田・須磨・垂水・西)
神戸アーカイブ写真館
各区别的写真パネルを借り、各館ごとにエリアを決めて展示。
「気軽に落語会」(灘) 7/19 3人・10/18 15人 楽喜(ラッキー)落語研究会
- ・連携先と相互に利用PR
「企画展示 長田区 今月の主人公」(新長田) 7月～
月ごとに地元で活躍する著名人のお薦め本の展示(長田区長・児童館職員・大学教員等に

	<p>も広く依頼。地域の団体や店舗の方は下記。)</p> <p>(7月) 一般社団法人神戸コア教育文化センター代表理事 金信鏞先生 (9月) 総合工作芸術家 だるま森+えりこ氏 (1月) 神戸アーカイブ写真館 東充氏 (2月) 神戸映画資料館 安井喜雄氏 田中範子氏 (3月) 元祖平壤冷麺屋本店店長 張守基氏</p> <p>「本の案内しよっ〜出張図書案内」 (北) 9/27 6人・2/28 5人・3/21 5人 於：鈴蘭台街の小さな図書室 (再掲) (北) 3/21 15人 於：神鉄鈴蘭台駅ベルスト鈴蘭台3階広場 (再掲)</p> <p>「旅」「甘い」「植物」など、毎回テーマを決め、30冊程度の図書紹介を実施。一部は図書リストにして配布。大人の居場所研究舎連携。</p> <p>「たなせいぞうこうじょう」(新長田) 10/4 29人 長田区で活動する総合工作芸術家 だるま森+えりこによるライブペインティング。 (3段カラーボックスにペインティング) 制作した棚は児童コーナーに設置し、著作を配架。 ☞講師が声を発したり、参加者同士で話すという必要がなく、作業している様子を自由にご覧いただくという形は、感染症対策には適していた。</p> <p>・外国人をサポートする団体との関係構築 令和2年度は既存の連携先との事業を継続するにとどまった。</p>
<p>評価</p>	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言等への対応・連携先との調整が成らず中止せざるを得ない行事もあったが、昨年度から試行錯誤してきた感染症対策のノウハウにより、それぞれできる範囲での事業を実施した。 ・「神戸セレクション」関連イベントでの地元企業との連携について、緊急事態宣言や感染状況等を注視しながら産業振興財団とイベント開催の可否を検討した結果、令和2年度の実施は見合わせるようになった。 ・新長田図書館や兵庫図書館では地域在住のアーティストや団体と新たな連携を行い、個性あふれる学びの機会を積極的に提供した。 ・名谷図書館の新規開館に合わせ、関係部局や企業と連携したイベントや広報を積極的に行った。 <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <p>(1) 行政機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者が参加して、図書館の本棚や椅子などを作り、実際に図書館で使われるという取り組みは非常に良い。ぜひ、既存の図書館でもやってほしい。 ・名谷図書館における企画調整局未来都市政策課と「リノベーション・神戸(第2弾)」事業のひとつとして、「イスづくりワークショップ」を行う取り組みなどは、図書館が神戸市全体のリノベーション計画に積極的に参加している事例であり、また「INAC神戸選手によるビデオメッセージ」など、図書館が「本好き」の人だけが利用する社会教育施設というイメージを打破し、市民の仕事や暮らしに密接につながっている地域の情報センターであることを示している。 ・地元行政との連携は、非常によく行われている。 <p>(2) 学校園との連携 →6 子供サービスの項へ</p> <p>(3) 大学との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ受け入れなど、工夫して取り組んでおられたのではないかと思います。 ・大学との連携では地元大学とのイベントを開催し、大学が実施する地域貢献事業の支援として「多文化こどもカフェ」を行うなど、図書館として「SDGs」(持続可能な開発目標)に取り組む姿勢は、高く評価することができる。

・大学との連携では、市内の大学数から考えて不十分とみられる。内容もどちらかといえば、受け身で大学側からのものが多い。大学図書館とは、本の流通という点で関係を持っていると考えられるが、大学のアカデミックな資源（スタッフや情報源）を把握して、地域館で有効活用する必要がある。大学図書館は、地方創生、グローバル化、電子化などの課題を有し、その連携を図っていただきたい。いわゆる住民の中の専門職的資源の掘り起こしや各大学のアーカイブを利用することも視野に入れていただきたい。大学図書館の司書の人たちはきっと積極的に協力してくれると考える。

(4) 企業との連携

・企業との連携に関しては、「神戸セレクション」関連イベントでの地元企業との連携が、新型コロナウイルス感染症拡大下において、実施できずきわめて残念であったが、今後、積極的に取り組む必要があると考えられる。

・企業との連携では、他分野にわたり、かつ大企業が多いはずの神戸市のよさが見えてこない。イベント開催が中止になった問題もあるが、企業と協力することが商品販売や広報の手伝いをするということになるという視点ではなく、SDGsの観点から市民にとって有益な情報を図書館を通じて学ぶ機会の提供が必要である。

(5) 地域団体・NPOとの連携

・図書館が地域の情報発信の場となるよう、地域団体などとの連携をより強めてほしい。

・新長田図書館、兵庫図書館における地域在住のアーティストや団体との新たな連携、名谷図書館における関係部局や企業との連携は今後につながっていくと考えられる。

・NPOや地域団体との連携は、十分行われているが、できれば、NPOや各団体の発展のために、図書館に何ができるかを考えて行きたい。

(その他全般)

・(1)～(5)でまとめられた、各関連機関と連携してのイベントの内容、回数、参加人数などから、制限のある中でかなり頑張っておられるとA評価。

・新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言などで連携しにくい状況だったことはよく理解できる。

・令和3年度の取り組みになるかもしれないが、東灘図書館で、地元の御影高校とのコラボ企画で、現役高校生が本を紹介した本棚と福袋が好評だと聞いた。いつも貸し出し中で人気のようだ。家族も本の選び方などに興味を示していた。ぜひ各館で地元の高校などこのような取り組みを進めてほしい。

・企画や実施数に関しては十分行われているし、内容もよいと思う。しかし、近年「多文化」の取り組みが様々なところで行われているので、バランスを考え子どもむけの「日本文化」への取り組みも必要ではないかと思う。

評 価

B

4 新たなサービスや機器

評価のポイントと取組事例	<p>(1) 図書館サービス網の拡充整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな返却ポスト設置（地下鉄三宮・花時計前駅、神戸電鉄鈴蘭台駅） 地下鉄三宮・花時計前駅は、令和2年6月30日から供用開始。 神戸電鉄鈴蘭台駅は、令和2年10月14日から供用開始。 一日平均利用冊数（令和3年3月） 地下鉄三宮・花時計前 150冊、鈴蘭台 79冊 灘 105冊、名谷 155冊、垂水 113冊 <p>(2) 快適便利な高機能機器の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> 書籍消毒器の設置（名谷・中央）（東灘・北神・須磨は導入済み） 公衆無線 LAN の設置（北・名谷）（中央・東灘・三宮・北神は導入済み） 北図書館 令和3年1月から供用開始。 名谷図書館 令和3年3月開館と同時に設置、供用開始。 予約図書自動受取機（地下鉄三宮・花時計前駅） 令和2年6月30日から供用開始 一日平均利用冊数 81冊（利用総冊数 21,740冊） 令和3年2月3日より 置き置き期間を当初の3日間から5日間へ変更 <p>(3) ICT 技術を活用したサービスと情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子図書館サービスの本格導入 令和3年1月5日サービス開始 試行実施時と運営会社が変わったため、ログイン画面や資料の検索、蔵書内容等が一新した。大きな特徴として、試行時にはなかった日本語の読み上げ機能、視覚に障害のある方向けの電子図書館利用サイト等、読書バリアフリー法の趣旨を重視したものとなっている。 また、試行時との違いとして、図書館カードの発行と同時に ID を付与しているため、電子図書館用の利用申込みは不要となった。 サービス開始は実用書 1,000冊、小説・エッセイ 400冊、絵本・子供向け読み物 600冊等、約 2,500冊、順次購入を増やし年度末には約 3,500冊に拡充した。 一日平均利用冊数 165冊（1/5～3/31 貸出合計冊数 14,175冊） 電子書籍（資格問題集等）の充実（再掲） 令和3年1月5日から電子図書館の運用を開始した。サービス開始ということもあり、様々な分野の資料が揃うようコンテンツ購入を行った。また、図書館独自のコンテンツも配信した。資格問題集等については、これから拡充していく予定である。 『日本の都市景観 100選』 『できるキッズ子どもと学ぶ JavaScript プログラミング入門』 『サピエンス全史』 『あ・うん』 『それゆけ、ジークス』 『ルドルフとイッパイアッテナ』 『タンタンタンゴはパパふたり』 等 図書館独自コンテンツ 『KOBE の本棚 神戸ふるさと文庫だより』 『としょびか』 自動貸出機の利用促進 ☞ カウンターの職員と接する必要があるため、感染症対策に有効であり、ポスターや利用ガイド等の行事で利用を呼びかけている。 「図書館べんりガイド」（須磨）10/18 33人・10/25 51人 ☞ 今年はできる限り接触時間を短く、シンプルな案内を心掛けた。 「知っ得としょかん」（新長田）10/27～11/8 14人
評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 返却ポストについては、新たに2か所設置し、市内合計5か所となった。利用冊数は増加傾向にあり、利便性を向上させたといえる。 予約図書自動受取機について、開始当初の1日平均利用冊数は50冊弱から、3月の1日平均利用冊数は101冊と増加している。2月から置き置き期間を延ばしたこととあわせて新型コロナウイルス感染症の影響により、非接触型サービスとしての利点から利用された面もあったと考えられる。

・電子図書館については、本格実施により読書バリアフリー法への対応のほか、利用申込み不要、検索機能のアップ等、利便性を備えた非来館型サービスを提供することができ、利用も試行時より多くなっている。

(再掲)

・電子書籍については、サービス開始に合わせて幅広い分野のコンテンツを収集、提供することができた。バリアフリー対応のため、読み上げに適したコンテンツを積極的に収集した。

・電子書籍の資格問題集の収集、多言語対応については、次年度以降の課題として残った。

【図書館協議会の評価・意見】

(1) 図書館サービス網の拡充整備

・三宮の返却ポストを利用している。東灘区にはまだないので、ぜひ増やしてほしい。

・快適便利な高機能機器の導入に関して、書籍消毒器の設置は良い取り組みであったと考えられる。新型コロナウイルス感染症に効果があるという科学的立証がなされていないという批判があるが、図書館にとって重要なことは利用者が新型コロナウイルスに感染する不安を少しでも取り除くことである。基本的な手指消毒等と呼びかけるだけではなく、心理的障壁を取り除き、巣ごもり状況にある市民が図書や雑誌を利用できる環境を整備することは大事であろう。

(2) 快適便利な高機能機器の導入

・書籍消毒器の設置を望んでいる利用者が小さい子供を持つ親など結構いるのではないだろうか。

・三宮の予約図書自動受取機はあまり分かりやすい設置場所とはいえないが、こうした市民サービスはより充実させてほしい。

・公衆無線 LAN の設置、予約図書自動受取機など、さまざまな機器類の導入は、これからの図書館には必須であり、市民の情報へのアクセスを快適にし、また利用者の時間を節約することは図書館の責務であると考えられる。

(3) ICT 技術を活用したサービスと情報提供

・読書バリアフリー法への対応などは、SDGs の観点からも素晴らしいと思う。

・コロナ禍で、自動貸し出し機がよく利用されているように思う。

・電子図書館の今後の展開に期待したい。

・電子図書館サービスの本格導入に関しては、ようやくこれで神戸市も ICT 活用型図書館サービスをスタートさせたと考えられる。まだまだ課題は多いが、まずは第一歩を踏み出したことは大いに賞賛されるべきだろう。

(その他全般)

・新たなサービスの導入については、非常によく展開されていると判断できる。

・(1) ~ (3) の内容をできる限り進めて、利便性をあげてほしい。

評価

B

5 利用しにくい市民への環境整備	
評価のポイントと取組事例	<p>(1) ユニバーサルデザインに配慮したサービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点字図書館との連携構築 新電子図書館のサービス開始を、点字図書館の利用者にも案内いただけるよう依頼した。中央図書館でユニバーサル機器の展示を計画しており、アドバイスをいただくなど引き続き連携していく予定。 <p>(2) ユニバーサルデザインに配慮した利用しやすい環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やさしい利用案内」作成 作成できなかった ・館内サインの見直し検討 一般図書コーナーのピクトグラム付き書架見出しを刷新した（東灘） 身体が不自由な方が気軽に図書館を利用して頂けるように、「ユニバーサルコーナー」として優先座席を用意した。また拡大鏡やリーディングトラッカー等も利用しやすいようにカウンターに案内を掲示した。（垂水） <p>(3) 図書館を利用していない市民層への働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用促進をはかる館内外での利用講座、「出前トーク」の実施 「出前トーク『図書館貴重資料に見る“こうべ”』」（中央）9/30 26人 於：住吉婦人会消費者学級 「本の案内しよっ～出張図書案内」（2-（2）の再掲） （北）9/27 6人・2/28 5人・3/21 5人 於：鈴蘭台街の小さな図書室 （北）3/21 15人 於：神鉄鈴蘭台駅ベルスト鈴蘭台3階広場 「図書館べんりガイド」（4-（3）の再掲）（須磨）10/18 33人・10/25 51人 「知っ得としょかん」（4-（3）の再掲）（新長田）10/27～11/8 14人 【閲覧だけではなく、これからは自動貸出機を使って本を借りたいからと、貸出カード発行につなげられたケースもあった。】 ・ママフレや長田区アプリ等メディアへの情報提供 「ためまっぷ中央」（三宮）「ためまっぷ長田」（新長田）への情報提供 エコール・リラのLINEを利用した行事等の情報提供（北神） 子育て応援アプリ「ナガイク」へのコラム（おすすめ本の紹介ほか）掲載（新長田） ・転入者へ利用案内配布（検討）
評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子図書館が1月5日より本格実施となり、2月特別支援学校などでPRを行い、3月には視覚に障害のある方をサポートされている公益社団法人の依頼で、Zoomを利用した「電子図書館の利用法・活用法」という説明会を参加者向けに行った。 ・ユニバーサルデザインに配慮した利用しやすい環境の整備については、各館とも工夫をこらし、ピクトグラムの導入など、随時行っている。館内表示だけでなく、配布するチラシやポスター、利用案内等「わかりやすい、やさしい」を基に作成していく予定である。 ・コロナ禍のため、当初計画していた「中央図書館でユニバーサル機器の展示等」の実施ができなかった。引き続き、連携とともにコロナ禍においてできる方法で、展示計画を実施する予定である。 ・外部アプリ等への情報提供を行うことができた。 ・利用促進をはかるイベントでは、自動貸出機を初めて利用したという方から、窓口での接触を減らせるとアピールすることで、今後も使ってみたいという好反応を得ることができた。 <p>【図書館協議会の評価・意見】</p> <p>(1) ユニバーサルデザインに配慮したサービスの提供</p>

・電子図書館サービスの本格的導入に伴い、読書バリアフリー法に規定されている「アクセシブルな電子書籍」がどの程度、神戸市民が利用できるのかを検証する必要がある。なぜならば、すべての電子図書が音声読み上げできるわけではないからである。音声読み上げ可能なタイトルをできる限り、増やしていくことがこれからの課題となろう。

(2) ユニバーサルデザインに配慮した利用しやすい環境の整備

・観点4と同じく、読書バリアフリー法への対応などは、SDGsの観点からも素晴らしいと思う。

(3) 図書館を利用していない市民層への働きかけ

・図書館を利用していない市民層への働きかけ（「出前トーク」やメディアを使った情報提供など）を、より進めてほしい。

・図書館を利用していない市民層への働きかけは、全国的な課題だと思う。最近オープンした名谷図書館、西区や垂水区の図書館などは、若い世代などの利用も増えているのではないかと思うがどうか。

（東灘区民、中央区で働く者にとっては羨ましい。）

・図書館を利用していない市民層への働きかけに関しては、さまざまな取り組みがなされており、今後も積極的に新しい手法を開発し、より多くの市民が図書館の利用者となるように引き続き努力する必要がある。そういう意味でも、電子図書館のような非来館型サービスの拡充のため、特別支援学校へのPRやZoomを利用した「電子図書館の利用法・活用法」の説明会を実施したことは、高く評価することができる。

・4.におけるICTサービスの導入は、ユニバーサルデザインに配慮したサービス提供にもなっている。また、視覚しょう患者向けのサービスや紙媒体を利用したサービスの展開も優れている。他方、普段から、本を読まない、読めない人たちの利用促進をはかる館内外での利用講座については、講座という形式以外での広報の充実が望まれる。市内の他の教育施設、特に成人がよく利用するような美術館や博物館だけでなく、ハローワークなどの就業サービス関連施設との連携を図ることが望ましい。生活に困窮している人、生活に課題を抱える人たちへの、図書館からの資料提供を図るサービスの充実が望まれる。

(その他全般)

・利用しにくい市民へ情報を届けるための工夫をもう少し考えてほしい。本を聴きたい人はたくさんいると思う。小説のCDなども。

評 価

B

(1) 生涯にわたって読書を楽しむ習慣を育てるための読書環境の整備

・資料収集と計画的な買替え

児童書新規購入数（令和2年度）：中央4,342冊（含BM）・地域図書館23,303冊

・乳幼児と保護者向けサービス イベント開催数 123回・参加人数 1,972人

「おひぎのうえのおはなし会」等の乳幼児向けおはなし会

（中央・東灘・灘・兵庫・北・北神・新長田・須磨・垂水）

☞定員を設け、参加者同士のスペースを適切に取れるよう、少人数で開催

「すくすく赤ちゃんセミナーオンライン」 11/16 1回目20組・2回目22組

1/25 85組・3/15 30組

こども家庭局主催 Zoom 生配信による乳児と保護者向け講座。図書館は「絵本の楽しみ方」をレクチャー

☞今回初めてオンラインにて全市共通で実施（例年は各区役所で対面実施）

「だっこでおはなし」（中央・三宮・兵庫・北・北神・新長田・須磨・垂水・西）

児童館、地域子育て応援プラザ等に出向いて、乳幼児と保護者を対象に絵本の読み聞かせや紹介を行うプログラム。

「ほのぼのひろば」（新長田）7～12月・3月

地域子育て応援プラザ長田と図書館スタッフによる絵本の読み聞かせ、手遊び歌、育児相談

「おはなしゆりかご」（兵庫）9月・10月 各月2回

地域子育て支援センター兵庫と図書館スタッフによる本の紹介や絵本の読み聞かせ、育児相談、ふれあい遊び

・館内外での子供と本をつなぐイベント

イベント開催数 346回・参加人数 4,630人 展示の回数 261回

◇図書館内

<夏休み行事等>

「キッズアイランド壁面展示」（北神）6/20～ 子供たちのぬりえを掲示するスペースを新設

「夏休みは本でぼうけん～図書館スタッフおすすめ本」（三宮）7/8～8/16

読書感想文おすすめ本の展示。利用者におすすめ本のタイトルを書いてもらい掲示(135枚)

「クイズラリー夏だ！ 自然でだいぼうけん」（新長田）7/22～8/23 176人

「スタンプラリー『お宝だいぼうけん！10』」（西）7/23～8/30

於：西図書館、埋蔵文化財センター クイズに答えて、両施設でスタンプを集める

「夏のおたのしみ袋」（須磨）8/1～8/30

幼児、小学校低中高学年の対象年齢別にテーマを決めて本を選び、袋詰めしたものを用意。

自動貸出機で貸出。

「影絵の世界」（灘）8/1 11人・10/3 8人 影絵劇団しろつめくさによる影絵

「おばけのうちわをつくろう」（北）8/8 13人

工作会終了後に、怖さをレベルで表したホラーバック（本の福袋）を選んでもらい貸出。

☞入替制で2回実施。換気・消毒を行った。例年、好評の怖いおはなし会の夏の開催を断念し、工作会に代替

<読書週間行事>

「分類ビンゴ」（中央）10/16～11/25 130人

ビンゴのマスに書かれた分類の本を読むイベント。

☞集わなくても、本を借りれば参加できるよう企画した。

「みる・きく・さわる～”りか本”のよみきかせワークショップ～出張版」（三宮）10/31 13人

テーマ：かたち バンドー科学館から講師を招いての実験・工作。図書館職員によるりか本（子供向けの理科の本）の読み聞かせ

☞距離の確保が難しかったため、今年は実験の実演を見てもらう形で実施。代わりにお土産

(いろいろな形のビーズを取り換えて楽しめる万華鏡)をお渡しする。参加者同士が向き合
ないように座席を配置した。

「クイズラリー『歴史』」(三宮)10/27 3人

「としょこちゃんからのちょうせん状」(兵庫)10/13~11/15 17人

クイズを解いていくことで、点字絵本、自動貸出機、パスファインダー等々、図書館のこ
とがわかるクイズラリー

「注文の多い料理店 すまとしょかん支店からの脱出」(須磨)10/13~11/8 235人

館内に隠されたクイズを探し、問題を解く。自由参加式で、1周クリアすると裏クイズラリ
ーに参加することが出来るという遊びの要素を取り入れた。

☞参加者が密にならないような動線を工夫。カウンターでの対応が最低限になるよう、答え合
わせの簡略化、モチーフの衝立越しに参加者と接する等の配慮を行った。

【モチーフとした『注文の多い料理店』の作品に興味を持たれる方、ご家族も興味を持って本
を探してくださるなど、子供だけでなく多くの方に好評であった】

<その他の行事>

「モ〜最幸福袋」児童〜一般 90冊(45袋)1/5~1/10貸出

1/26~2/28感想カードの展示(垂水)

スタッフおすすめの本を入れた福袋を貸出。返却後は書いてもらった感想カードを展示

◇図書館外

「こどもわくわく食堂での読み聞かせ」(兵庫)毎月第4土曜日 於:兵庫区聖家族児童館
(カトリックキリスト教会敷地内)、国際交流シェアハウスやどかり

☞継続事業であるが、今年は絵本の展示(閲覧)を中心に実施。読み聞かせの要望がある場合
は、屋外で人数制限(入替制)、マスク着用、距離を保った上で実施。

「夜の出張図書館「耳なし芳一読み語り」(兵庫)8/8 83人・8/10 67人 於:兵庫駅南公園
第6回兵庫駅南公園こどもフェスタ「公園きもだめし」の中で読み聞かせを実施

「ワークショップ『かたち』」(三宮)9/26 4人・12/26 4人・3/27 6人

於:バンドー神戸青少年科学館

科学ワークショップのテーマに関する絵本の読み聞かせ

・小・中学生への調べ学習支援(調べ学習イベント、パスファインダー作成等)

イベント開催数 8回・参加人数 47人 展示の回数 5回

「『図書館を使った調べる学習コンクール』レプリカ&関連本展示」7月~8月
(東灘・新長田・須磨・垂水)

「図書館を使いこなそう!」(北)8/1 3人

図書館の基本を学び、クイズで楽しく実践を行う体験型のイベント

☞例年の内田家での調べ学習は検討した結果断念し、館内で資料の多さを活かすプログラムを
実施

「自由研究講座」(垂水)8/6 7人

「親子で楽しむプログラミング教室」(新長田)9/6 4回・計23人

(株)mama square 連携(3-(4)の再掲)

「垂水の浜の生き物博士になろう」(垂水)10/17 4人

マリニピア神戸さかなの学校・栽培漁業センター連携

☞例年は夏に開催。今年は定員を削減し、受付方法を抽選に変更。生き物とのふれ合いは中止
したが、少人数での開催で講師への質問がしやすく盛り上がった。

「プログラミング体験講座 ロボット『こくり』は動くかな?」(東灘)10/31 10人

「パスファインダー改訂 『芸術』」(兵庫・北・北神)

・YAコーナーの充実を中心とした青少年層への読書推進

イベント開催数 3回・参加人数 90人 展示の回数 141回

「『10代のための』POPコンテスト@ほくしん」(北神)3/2~5/16 POP参加人数:21人

「YA 新刊コーナー新設」 (北神) 6/1～
 「『進路・進学ヒント』コーナー新設」 (北) 7/1～
 昨年度、季節限定での設置を行ったところ、資料利用が増えたことを受け常設。
 「あなたのアマビエコンテスト」 (須磨) 9/15～11/8 2人
 YA かわら版にてアマビエイラストの募集
 「『新長田図書館だより』のリニューアル」 (新長田) 10月～
 YA 世代以上を対象とし、“図書館を身近に感じられる、そしてちょっと得した気がする”
 をコンセプトにリニューアル。
 「to youth…よんどく？」 掲示 (新長田) 毎月
 長田区文化センターユースステーション内掲示版にて YA 向け図書館員おすすめ図書の紹介
 「展示『ほんのわ』で紹介した本、集めました。」 (北) 10/27～11/29
 YA 向け図書館だよりが 50 号の節目を迎えた読書週間行事として、各号に掲載の紹介文と
 ともに本を展示
 「あなたの「推し本」教えてください～POP コンテスト 2020～」 (北) 11/24～12/13
 POP 参加人数：24 人 コンテスト投票人数：43 人
 YA 世代から募集した本の POP を展示し、来館者に投票してもらった。また、投票後は、投票数の多かった人気の POP を本とともに展示した。

・学校と連携した中高生参加のイベント

イベント開催数 9 回・参加人数 485 人 展示の回数 2 回
 「夏のこわ～いおはなし会」 (兵庫) 8/1
 神港橋高校の生徒 1 人と図書館スタッフによるおはなし会
 「橘タウンミーティング」 (兵庫) 10/5・10/19・10/26 延 425 人 於:神戸市立神港橋高等学校
 地元兵庫区・神戸市の多様な分野で活躍する地域の人 (個人・団体・企業問わない) から、
 それぞれの取り組み事例を講演いただく。神港橋高校の 2 年生が対象。地域で活躍する“達人”
 たちから直接、活動内容を聞くことで、生徒たちの地域への関心を高め、神戸を支える「人財」
 育成に繋げる取り組み。
 ☞例年夏休みに、中央図書館を会場にして開催している中学校図書係生徒のつどいは、学校側の
 申し出により中止した。
 「中央図書館を極めよう！」 (調べ学習・自由研究) (中央) 10/16～1/8 5人
 神戸市立須磨翔風高等学校の集中講座。初日に司書から情報の探し方について講義を行った。
 各自テーマを決めて、各々週 1 回来館し自由研究を行った。
 「兵庫図書館×兵庫中学ライブラリーPOP コンテスト」 (兵庫) 11/17～12/13
 神戸市立兵庫中学校 2 年生、30 人の作成した POP を対象に学校、図書館、合同で優秀作 10 点
 を選出。その他、20 点の作品も館内に展示

・その他

「おはなしえほん」 (北神) 4/19～
 ☞緊急事態宣言を受けて自宅待機する子供が物語を自分で作って遊べる「おはなしえほん」を
 企画し、図書館ホームページと Facebook、エコー・リラの LINE、神戸新聞子育てクラブ「す
 きっぷ」のサイトに掲載
 「『ソーシャルディスタンス号』貸出」 (新長田) 10月～
 ☞小学校低学年くらいまでの子ども 1 人が入れる大きさの、たこやペンギンを模った段ボール
 箱を館内で読書をする際に随時貸出。側面の腕のような部分を広げると横との距離が分か
 り、自然と適切な距離をとることができるというもの。

(下記に写真)



(2) 学校園との連携

- ・団体貸出による資料提供
 - 「テーマ本集め」(全館) 貸出回数：365回
 - 図書館再開後 5/29 より受付
 - 「総合学習用図書」の貸出(中央) 貸出回数：157回
 - 2学期より巡回貸出を開始
- ・幼稚園巡回図書の実施
 - 市立幼稚園 30園 私立幼稚園 15園 年2回の巡回(例年は3回)
- ・高校出前授業
 - 北須磨高校(中央)、夢野台高校(兵庫)、須磨友が丘高校(須磨)、伊川谷北高校(垂水)
 - 保育専攻の生徒に向けて「絵本の読み聞かせ」について講義・実践
- ・小学校出前授業「ブックトーク」(「本へのとびら」事業含む) (灘・兵庫・北) 19回
 - テーマ「韓国のおはなし」「おに」「世界の昔話」など
- ・小学校からの見学受入(全館) 64回
 - 8月から受入再開。密集を避けるため1クラスごとに分散して受入
- ・その他
 - 「小学校出前授業(図書館見学の代替)」(東灘・垂水・西) 14回
 - ☞館内の混雑を避けるため、今年度は出前授業の形での実施を小学校へ提案。写真を多用し館内を実体験できるようなスライドを作成

(3) 子供の読書活動推進に関わるボランティア等との連携や支援

- ・ボランティア団体との連携企画
 - 「定例おはなし会」(職員およびボランティアグループ実施)
 - 7月より感染対策の整った館より再開。10月～全館ほとんどのグループで実施
 - ☞マスク、フェイスシールド着用、透明パネルの設置。人数削減、換気・消毒
- ・ボランティアスキルアップ講座の開催(中央)
 - 第1回「ボランティア交流会」12/11 25人
 - 尾野三千代氏の講話、ボランティアグループによるおはなし会実演
 - 第2回「2020年のこどもの本 紹介と展示」2/25 24人
 - 中央図書館の子どもサービス担当者による近刊児童書の紹介

評価

【図書館の自己評価】

- ・コロナ禍により従来の参集型行事ができなかったことで、各館ともそれに替わる方法を模索した。その結果、新たな発想での取組ができたことや、新規参加層の開拓につながる面もあった。感染終息後も、様々な理由で図書館を訪れにくい人との接点づくりに生かされる可能性はある。
- *本の福袋：自動貸出機により人との接触を回避。関心外の本、思いがけない本との出会いの提供。
- *小学校出前授業(見学の代替)：電子黒板で蔵書検索や電子図書館を実際に使って見せた。教室での子どもの集中度を実感。図書館についてよく知ってもらえた。
- *「すくすく赤ちゃんセミナーオンライン」での絵本の楽しみ方のレクチャー：デジタル世代の保護者に気軽に参加してもらえた。一度に多人数が参加可能なこと、絵本を画面上で大きく見てもらえることは利点と言える。

*「分類ビンゴ」「クリズラリー」：書架をめくり貸出することで参加できるイベントを実施したことで、より読書に直結する取組ができた。

*図書館作成の児童書紹介リーフレット・リストを集めたページをホームページに掲載

・令和2年度の子どもサービスと学校園連携は、閉館時期、取組の中止および実施回数の削減により、利用減少となっている。

*前年度比

子ども向け行事等（おはなし会等 40%、児童向け行事 30%、児童書展示 90%）

学校向け支援（テーマ本集め・総合学習用図書利用回数 80%、見学 50%、出前授業 60%）

図書館発信でのオンラインの取組は現在検討中である。子どもに対する行事は対面実施の良さ

（生の声の温かさ、一体感、絵本の質感など）を大切にしながら、オンラインの利点も事業によっては取り入れて今後の取組を考えていきたい。

【図書館協議会の評価・意見】

(1) 生涯にわたって読書を楽しむ習慣を育てるための読書環境の整備

・中高生（大学生も？）向けの進路、学部や学校選び、仕事や働き方、人生や生き方の参考になる選書やアピールを望む。

・子供サービスの充実と学校図書館支援に関しては、中央図書館、地域図書館ともに計画的な買替えを実施している点は、評価できよう。また、Zoom 生配信による乳児と保護者向け講座のような試みは、今後もっと積極的に実施されるべきだろう。

・いわゆる STEAM 教育との関連で、文学や歴史だけでなく、科学ワークショップのような子供向けイベントももっと回数を増やすべきだろう。「親子で楽しむプログラミング教室」のような取り組みをこれからの公共図書館は意識的に実践する必要があると考えられる。

・YA コーナーの充実に関して、実際に中高生が主体的に図書館の YA コーナー作りに参画することが肝要である。中高生が主人公で、図書館司書はサポート役といった体制を早期に実現し、YA を対象とした図書館サービスを根底から見直す時期が来ているように思える。

・特に中高生の読書離れに対応したサービスの展開は、非常に評価できる。今後もさらにその展開を続けていただきたい。

(2) 学校園との連携

・令和2年度の学校教育活動は、4・5月は臨時休校となり、6月中旬からのスタートだった。新型コロナウイルス感染防止対策のため保護者でさえ入校を規制するなどの厳しい対応をしていたため、学校園との連携は難しかったことも仕方がないと思われる。

・図書館を身近なものとして使いこなすには、小さい頃からの関わり方が重要だと思う。小学校で、図書館の使いこなし方、電子図書館の使い方などを教えてほしい。各学校の図書室や司書さんと連携できないか。

・コロナ禍ではあるが、各図書館への見学の受け入れを積極的に増やしてほしい。

・学校園との連携についても、単なる団体貸出や巡回図書、出前授業、見学の受け入れだけでなく、電子図書の貸出サービス、電子雑誌の貸出サービス、オンラインデータベースの導入を市内の学校園に広げていくような試みを、電子図書館サービスを提供しているベンダーと交渉していく必要があるのではないと思われる。PISA 調査で明らかになった日本のオンライン授業の導入率が OECD 加盟国中最下位という実態は、2020 年から顕在化した新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって、次第に導入率が高まる傾向にある。その中で、図書館情報資源のデジタル化とその活用は、学校園にとっても喫緊の課題であろう。神戸市という行政単位で見た場合、公共図書館と学校園の連携により、電子図書、電子雑誌、オンラインデータベースの活用を拡大し、新たな知見を生み出す場を創出することが重要であると考えられる。

・コロナ禍の中での利用減少はいたしかたないとして、学校園との連携の中で、各学校図書館との連携において、オンラインでのサービス利用の充実を図っていただきたい。各学校図書館では、英語教育の普及から、英語教材の増加が見込まれるが、市の図書館としても、学校でそろえられないような英語教材や各言語教材の充実を図っていただきたい。この報告書では、各学校図書館とのネットワークやプラットフォームの状況がわかりませんが、電子図書館サービスの充実とともに、そのようなシステム整備

を期待する。

(3) 子供の読書活動推進に関わるボランティア等との連携や支援

(その他全般)

・様々な工夫をこらしたやり方で、イベントを実施されており、評価する。是非、この経験と実績を次につなげてほしい。

・コロナ禍で特に子どもたちへの対応は難しい面があったと思う。オンラインでの取り組みについては、どのような方法が効果的なのか、引き続き検討してほしい。

・いろいろな企画を工夫していると思う。PRのしかたや参加方法を工夫して、さらに発展させてほしい。

・購入数などをみるととても充実しているし、イベントも多く、子供が本に出会う機会や、楽しむ機会を作っている。今後とも、コロナ禍でも、状況に応じた企画を行ってほしい。

・コロナ禍で大学での授業がほとんどない大学があり、友だちもできないし、授業もオンラインで苦境にいる学生もいるのではないかと思う。そんな大学生への企画ができればいいと思う。

評 価

B